中央区小学生ドッジボール大会ルール

【第１章】 基本条項

(1) チーム編成

監督・コーチ各１ 名の合計２名（兼任不可)。選手は、キャプテンを含め 10 名以上 15 名以内（男女混合：男子または女子が最低１人参加していること）の登録とします。

(2) キャプテン

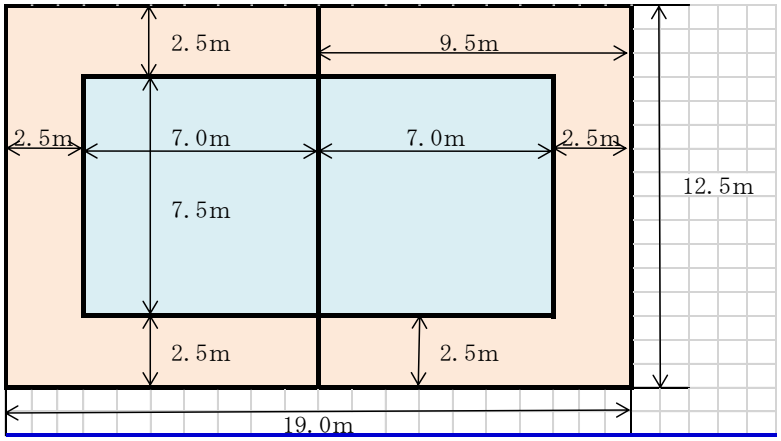
試合開始時のボール支配権を決めるため、チームは、選手から１名キャプテンを決めてください。

(3) 服装・靴

選手の服装は上下とも体操服を着用してください。靴は、室内用運動靴（体育館シューズ等）を着用すること。体操服・室内用運動靴を着用の上、主催者が用意したゼッケン（ビブス）を必ず着用してください。前半に出る選手が 1～10 番をつけます。11 番以降は後半のみ出場する選手が着用します。途中で交換しないでください

【第２章】 競技場及び用具

(1) コートサイズは以下のとおり。



(2) 用具

試合球はソフトドッジボール（ミカサＳＴＤ－２ＳＲと同等品）を使用します。

また、次の用具等の使用は禁止します。

① スパイクシューズ

② 手袋やリストバンド

③ 指や手首などへのテーピング

④ 滑り止めと判断される物

⑤ アクセサリー等

⑥ 主審が危険と判断した物

【第３章】 競技方法

(1) 試合形式

出場チーム数に応じての予選リーグを行い、予選リーグを通過したチームで決勝トーナメントを行います。

(2) 試合時間

試合は前半４分、休憩２分、後半４分で行います。

(3) 試合人数

試合は、10 人対 10 人で行います。試合開始時は、内野７人、外野３人です。

登録選手は、各試合必ず出場しなければなりません。選手交代は、2 分間の休憩時にのみ行うことができます。ただし、前半・後半ともに男女混合でなければなりません。延長戦以降は男女混合であれば登録選手は誰が入ってもかまいません。

※試合開始時に、何らかの理由で登録選手数が 10 人に満たない場合や男女混合でなくなった場合、試合は行いますが、勝敗はつきません。予選リーグでは、対戦チームが勝ち点２、得失点７となります。決勝トーナメントでは、そこで敗退となります。

(4) 試合開始

試合開始時のボールの支配権は、キャプテン同士のジャンケンで決定します。ジャンケンは主審の前で行います。勝った方がボール権を得ます。試合はブザーの鳴り始めで開始します。

(5) 試合再開

ファウル等で試合が中断し、その後、試合が再開される場合、ボールを持った選手は、自エリア内で静止し、ボールを頭上に上げて(ボールアップ)主審の笛の後に投球します。ボールアップなしで投球するとやり直しになります。

(6) 試合終了

試合はブザーの鳴り始めで終了します。終了のブザーを聞いたら、すぐにその場に座り主審の判定を待ちます。また、相手チーム全員を当てた場合は、時間内でも試合終了となります。

なお、相手チームの最後の１人を外野から当てても内野に入ることはできません。

(7) 試合の勝敗

前半・後半で内野に残った人数を得点とし、その合計の多い方が勝ちです。同点の場合、予選リーグでは引き分けとし、決勝トーナメントでは延長戦 2 分で勝敗を決めます。延長戦でも同点の場合は再延長戦 2 分で勝敗を決めます。なお、延長戦のボール権は前半にボール権を持ったチームになります。再延長戦のボール権は後半にボール権を持ったチームになります。

(8) 順位決定方法

予選リーグの順位は、勝ち点（勝ち 2、引き分け 1、負け 0）の多い方を上位とします。勝ち点が同じ場合は得失点差の大きい方が上位です。それも同じ場合はチーム代表者 3 名によるジャンケンで決定します。

(9) 判定への抗議・アピール

試合の勝敗や、アウト・セーフ等の判定は審判が行います。判定に対する抗議及びアピールは認めません。

【第 4 章】プレイの注意事項

(1) 基本ルール

①外野は、相手の内野を当てると中に入ることができます。

②当てたら、その時点ですぐに入らなければなりません。

③外野が 3 人の時は、当てても入れません。（外野は常に 3 人以上いなければなりません。）また、後から内野に入ることのできる権利も発生しません。

④最初から外野にいた選手も、当ててからでないと入れません。

(2) アウトについて

①内野で相手の投げたボールに当てられた選手はアウトです。

②ボールが地面につく前に連続で当たった場合は、当たった選手すべてがアウトになります。ただし、当たったボールが地面につく前に他の選手が受けた場合は、全員セーフとなります。相手チームの選手が受けた場合もセーフです。

③体操服、その他身に着けているもの（例：帽子、ハチマキ、ゼッケン等）に当たった場合もアウトです。

(3) ボールの支配権

①コート外に出たボールは、相手の内野ボールからスタートします。（アウト・オブ・バーンズ）

②内野の選手がボールをキャッチした時にラインを踏んでしまったら、アウトではありませんが、相手のボールとなります。味方が当てられたボールを、助けようとして受けに行った場合も同じです。その場合、最初に当てられた選手はアウトになります。受けそこなった場合はその選手もアウトです。

【第 5 章】 相手ボールになる反則

(1) ラインクロス

ラインを踏んでの投球（投球後の踏み越しはセーフ）

(2) ヘッドアタック
頭部（首から上）への攻撃

(3) ホールディング
相手コートにあるボールを手などで引き寄せる行為

(4) 遅延行為
味方同士のパスで、わざと試合を遅らせていると審判が判断した場合

(5) ダブルタッチ
内野の選手が、当てられた直後にボールにさわってしまう

(6) ダブルパス
外野同士のパスが、相手の内野を通らなかった場合・内野同士のパス

【第 6 章】 細則

(1) 内野と外野を移動するときにはボールにさわってはいけません。たとえ無意識でも、当てられた選手がボールにさわってしまうと、内野の選手がした場合には「相手内野のボール」となり、外野の選手がした場合はたとえ当てても内野に入る権利が無くなります。また、当てた後すぐに内野に入ろうとしなかった場合は、復帰する権利を放棄したものとみなす場合があります。

(2) 頭部への攻撃は禁止で、当たってもセーフとなり、当てられた選手のボールで再開します。ただし、わざと自分から頭にボールを当てに行ってはいけません。審判の判断でアウトになることがあります。頭部にボールが当たった場合は、その瞬間に試合がストップとなります。従って、①1 人目が頭に当たり、2 人目が普通に当たったとしたら、2 人ともセーフで、1 人目に当たった選手のボールで再開します。②1 人目が普通に当たり、2 人目の頭に当たった場合は、1 人目はアウトで、2 人目の選手のボールで再開します。

(3) ボールを持ったら自分で投げるのが基本です。従って、内野同士のパスや同じ辺の外野同士のパス（内野を横切らないパス）は禁止です。その場合、相手ボールでの再開となります。

(4) 外野同士のパスは、相手の内野を通るように投げなければなりません。辺の異なる外野同士のパスは OK ですが、繰り返し行い、審判が遅延行為と判断した場合は相手ボールになることがあります。
また、ボールを持って外野を移動してもかまいませんが、もどってはいけません。

(5) ボールを当てて、外野から内野に入ろうとする選手をしつこくねらうのは禁止です。当たってもセーフ、やり直しとなります。

(6) アクシデントが起こった場合、コート責任者の判断で試合を中断します。その際はロスタイムをとります。

(7) 試合中、怪我などでコート外に出た場合、試合終了までにコートに戻らなければ、得点としてカウントされません。

【第 7 章】お願いとマナー

(1) チーム責任者

①本部のブザーの合図で一斉に試合を開始しますので、試合開始 15 分前には選手を引率し、待機場所に誘導してください。

(2) 選手

①コート外に転がったボールは、選手の皆さんが取りに行きましょう。

②安全のため、内野と外野を移動するときは、外野のセンターラインを通りましょう。(当日は赤ラインを貼っています。)

(3) 観客

①相手を誹謗するような応援・フラッシュをたいての写真撮影・鳴り物を使用しての応援は禁止です。

②ゴミは必ず持ち帰ってください。

③観客席から水筒などが落ちてくる事例が多発しています。乗り出しての応援は危険ですので注意してください。